

## 大会宣言（案）

私たちは、愛労連結成以来、全てのはたらく人たちが「人間らしく生き、働ける」職場・社会をめざし奮闘してきました。政府・財界・「連合」ぐるみの低賃金攻撃や苛酷な合理化政策に正面から対決し、愛知春闘共闘などたたかう労働者・労働組合との共同行動を前進させるとともに大企業労働者・未組織労働者への呼びかけを強め、大幅賃上げや労働時間短縮のたたかいを軸に「管理春闘」打破をめざす本格的な国民春闘を追求してきました。

消費税の廃止、小選挙区制導入反対、PKO協力法など自衛隊の海外派兵阻止、医療・年金改悪反対、教育の反動化反対など様々なたたかいのシーンでも「愛労連が結成されてよかった」と言われる状況をつくりだし、県段階で愛労連が、地域段階で地域労連がそれぞれ「センター」としてのイニシヤチブを発揮する状況をつくりだしてきました。

いま、自民党政府の臨調「行革」路線によって、医療・教育・福祉予算の切り捨てなど国民のいのちとくらしは脅かされ続けています。それに拍車をかけるように「バブル経済」崩壊・景気後退を口実に全面的な労働者・国民への犠牲転嫁がしかけられてきています。自衛隊の海外派兵はこの10月にもカンボジアへの派遣が強行されようとしており、憲法の平和原則が踏みにじられようとしています。施設大隊のいる豊川や守山基地、C-130Hが配備されている小牧基地など愛知県内からも多くの自衛隊員が派遣されます。大企業・未組織職場での労働強化はいっそう強められ、「過労死」の危険はますます高まっています。労働時間短縮に名を借りた労働基準法の改悪さえたくらまれています。

しかし、労働者・国民のくらしを守るエネルギーは、着実に蓄えられています。

参議院選挙の結果は、50.7%という史上最低の投票率と自民党が有権者のわずか16%（比例代表選挙）の支持しかえられなかったことに端的に見られるように、自民党政治にたいする国民の「不信」をはっきりと示しています。また、「連合」候補の惨敗と、それと対象的な沖縄での「革新統一」候補の勝利など国民生活擁護・平和と民主主義を守る革新統一の流れに期待が高まっています。

来春には、名古屋市長選挙があります。職場・地域から政治の革新を、生活の革新を実現させる絶好のチャンスです。

平和と民主主義を守り、軍拡臨調路線をストップさせ、世界のGNPの一割を超える経済力を国民のために使わせる政治の革新が、いま求められています。

「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を」の国民的運動が、いま求められています。

私たちは、この2日間の大会を通じ、①人間らしく生き、働くための労働条件の改善をめざす。②国民のくらしの向上と大企業の横暴の民主的規制をめざす。③平和と民主主義を守り、政治の革新をめざす。④10万愛労連の実現など、内外の期待に応えうるセンターへの前進をめざす、たたかう方針を確立しました。

「1047名の不当解雇撤回、JRを住民の足に」と幅広い仲間へよびかける10・18国鉄フェスタinあいち。「自衛隊の海外派兵は許さない。日本に基地はいらない」と全国から愛知に集う、11・20～23日本平和大会、依佐美基地・人間の鎖行動。「草の根の切実な要求を、地域から中央へ。そして、また地域へ」と運動の大きなまとまり、ひろがりを目指す、11・29国民大運動中央大集会など多様な活動の場が、私たちをまっています。

労働者・国民の切実な要求実現をめざし、感性豊かに、創造的にたたかいぬくことをここに宣言します。

1992年9月6日

愛労連第7回定期大会